

「世界津波博物館会議」に参加、協力しました(2017/11/04-05)

テーマ：世界津波の日、津波博物館
場所：沖縄県石垣島

制定以来2回目の「世界津波の日」となる2017年11月5日(日)、沖縄県・アートホテル石垣島において、第1回「世界津波博物館会議」が開催されました(主催：国連国際防災戦略事務局 UNISDR・日本国外務省・国際協力機構 JICA、協力：東北大学災害科学国際研究所)。またその前日は、石垣島において、過去の津波および津波石について学ぶ巡検が実施されました。世界各国(アメリカ、インドネシア、スリランカ、タイ、トルコ、ポルトガル)から津波や防災に関する博物館の関係者が集まり、また日本からは和歌山県・稲村の火の館、人と防災未来センター、広島県江波山気象館関係者も参加し、活動状況や課題の共有等を行いました。当研究所からは、今村文彦所長、サッパシー・アナワット准教授、後藤和久准教授(以上、災害リスク研究部門)、川島秀一教授(人間・社会対応研究部門)、小野裕一教授、智片通博特任教授(客員)、柴山明寛准教授、ボレー・セバスチャン助教(以上、情報管理・社会連携部門)、中鉢奈津子特任助教(広報室)が参加し、講演・司会・総括・巡検等で協力しました。

世界津波博物館会議では、カーシー・マディ UNISDR 官房長(代読)、中山義隆石垣市長、福井照衆議院議員のご挨拶に続き、「知る」「気づく」「残す」「伝える」などをテーマに各博物館の活動紹介、津波石や津波防災に関する講演、パネルディスカッション等が行われ、3D映画「大津波 3.11 未来への記憶」(NHKメディアテクノロジー制作、IRIDeS 今村文彦所長監修)の上映も行われました。会議・巡検と合わせて、津波や世界の津波博物館への理解を深め、国際連携の重要性を確認する貴重な機会となりました。

災害科学国際研究所「世界津波の日」：<http://irides.tohoku.ac.jp/project/tsunami-awareness.html>
UNISDR による報告：<https://www.unisdr.org/archive/55976>

「世界津波博物館会議」プログラム

- ・オープニング
挨拶：カーシー・マディ UNISDR 官房長(代読)、中山義隆石垣市長、福井照衆議院議員
- ・第一部「知る：津波の恐怖をどのようにして伝えてきたか」
座長：小野裕一教授(情報管理・社会連携部門)
アメリカ、インドネシア、タイ、スリランカ、ポルトガル、トルコ、日本の各博物館の紹介
- ・3D映画「大津波 3.11 未来への記憶」上映(協力：NHKメディアテクノロジー)
講演：智片通博特任教授(客員、情報管理・社会連携部門)
- ・第二部「気づく：身近に存在するフィールドミュージアム」
講演：後藤和久准教授(災害リスク研究部門)「津波石が伝える巨大津波の脅威」
講演：川島秀一教授(人間・社会対応部門)「海から上がった石の伝承」
- ・第三部「残す：語り継ぎ(伝承)のデータベース」
座長：サッパシー・アナワット准教授(災害リスク研究部門)
パネリスト：柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門)、チリ、ポルトガル、インドネシア、日本の津波博物館・防災関係者
- ・第四部「伝える：津波博物館が伝承拠点として担う役割」
座長：中鉢奈津子特任助教(広報室)
パネリスト：アメリカ、スリランカ、トルコ、タイ、日本の津波博物館・防災関係者
- ・第五部 特別講演
ムザイリン・アファン・シアクアラ大学国際室室長、尾崎正直高知県知事
- ・閉会
まとめ：小野裕一教授、挨拶：涌井純二・JICA 地球環境部次長兼防災グループ長

文責：中鉢奈津子(広報室)
(次頁へつづく)



明和津波被害にあった桃林寺を巡検する
 今村文彦所長および災害研教員



巡検中、津波石について解説する後藤准教授



会議出席者



小野教授司会



川島教授講演



智片特任教授（客員）講演



パネルディスカッション
 座長：サッパシー准教授
 パネリスト：柴山准教授



パネルディスカッション
 座長：中鉢特任助教